

春秋山伏記プロジェクト 第二回舞台公演

藤沢周平 春秋山伏記 狐の足あと

藤沢周平「狐の足あと」(新潮文庫「春秋山伏記」所収)

2022 11/4(金) - 11/6(日)

出演

佐藤 輝 (オフィス天童)

斎藤 志郎 (文学座)

大場 圭祐 (演技集団 朗)

菅原 司 (フリー)

渋谷 宏美 (キャンバスシネマ)

佐々木 亜希子 (ワイ・プランニング)

白幡 大介 (劇団文化座)

ピアノ演奏

上田 亨

構成・演出 / 佐藤 輝

音楽 / 上田 亨

ステージング / 神崎 由布子

衣裳 / 竹林 正人

宣伝美術 / COME-LAB

制作 / 天童 真理子

東京・神楽坂

THEGLEE

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂3-4 AYビルB1

JR飯田橋駅 西口から徒歩7分

東京メトロ 飯田橋駅 神楽坂寄り出口(B3出口)から徒歩5分

TEL 03-5261-3124

(平日10:00~18:00 この電話では予約を受け付けておりません)

後援 / 山形県

協力 / 出羽三山神社

藤沢周平事務所

鶴岡市立藤沢周平記念館

企画・製作 オフィス天童 *office* -TENDO

info@office-tendo.jp <https://office-tendo.jp>

藤沢周平 春秋山伏記 狐の足あと

出演(登場順)



佐藤 輝
(オフィス天童)



斎藤 志郎
(文学座)



大場 圭祐
(演技集団朗)



菅原 司
(フリー)



渋谷 宏美
(キャンパスシネマ)



佐々木 亜希子
(ワイ・プランニング)



白幡 大介
(劇団文化座)



上田 亨
(ピアノ演奏)

構成・演出/佐藤 輝 音楽/上田 亨 ステージング/神崎 由布子
衣裳/竹林 正人 宣伝美術/COME-LAB 制作/天童 真理子
後援/山形県 協力/出羽三山神社 藤沢周平事務所 鶴岡市立藤沢周平記念館

2022年 11月4日(金) - 11月6日(日)

開演時間 4日(金) 19時開演★
5日(土) 13時開演 / 18時開演★
6日(日) 13時開演 ※開場は開演30分前です

入場料金 5,000円【全席自由席】+ 当日会場で1ドリンク(500円)
(アルコールの場合 800円)
U-30料金 2,500円 + 当日会場で1ドリンク(500円)
(★の回のみ/枚数限定) ※観劇時30歳以下。オフィス天童にメールで直接お申込みください。

チケット取り扱い

- ▶ オフィス天童 <https://office-tendo.jp/office-TENDO.ticket.html>
HP「チケットお申込みガイド」からメール、FAX、チケットぴあ、などでお申し込みください。
- ▶ THEGLEE <http://theglee.jp>
HPのScheduleから当公演の拡大ページを開き「プレイガイドでチケット購入」をクリックしてお申し込みください。

東京・神楽坂
THEGLEE

- 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂3-4 AYビルB1
- JR飯田橋駅 西口から徒歩7分 東京メトロ飯田橋駅 B3出口から徒歩5分
- 公演当日の緊急お問い合わせ 080-1015-2345

● お問い合わせ

オフィス天童 office-TENDO
〒136-0076 東京都江東区南砂2-34-8 東陽町ガーデニア1404
info@office-tendo.jp <https://office-tendo.jp> 03-3649-8754



大好評「お試し」に続く第2弾!! 「狐の足あと」

「狐は人恋しくて寄ってくるって言うさげの。さきえちゃん、ええ女子ださげ、のぞきさ来たかの。それとも、だだが目あてて、女狐が来たか」

「ばかこけ」

と広太は言って、顎をなでた。

—「春秋山伏記」より

藤沢周平のサスペンス 足あとはどこへ続くのか…

藤沢周平「春秋山伏記」(新潮文庫所収)

村の神社の別当として羽黒山から遣わされて村に定住した若き里山伏・大鷲坊(たいしゅうぼう)と村人たちとの交流を、庄内地方の美しい四季の変化を背景に心暖まるヒューマンなタッチで描いた作品。江戸時代後期の農村の日常を舞台とし、そこで暮らしている村人が主人公の異色時代小説。サスペンスに艶笑譚も織り込んで、逞しくユーモラスな人間模様が生き生きと描かれる。「お試し」「狐の足あと」「火の家」「安蔵の嫁」「人攫い」の5編からなる。作者が特に庄内弁にこだわって、庄内地方の風土と庄内人の心情を描いた物語。

狐の足あと

ほろ酔いの藤助は深夜の月の光の中で見た。遠国へ出稼ぎに行っているはずの広太の家の戸口にちらちらと灯がまたたき、ふっと灯が消えた後、戸口の前に黒い影がちらと動いたのを。四、五回霰が降り続いたあと、厚く雪が積もった翌日、肝煎弥兵衛から大鷲坊に「すぐに家まで来てくれ」との使いがやって来た。弥兵衛宅奥座敷で待っていたのは弥兵衛と添役の多三郎、それに多三郎の息子の宗助だった。「内幕の話でいうと、何ですかの」大鷲坊が訊ねた。「じつは、えらいことが特ちゃがっての」と弥兵衛は言った。

昭和53年「春秋山伏記」に出会って、この物語は、永遠に、庄内の風土、人々の人情や暮らしをつぶさに語り継ぐ庄内風土記だと感動して以来、舞台上で表現したいと、ずうっと思い続けてきました。その実現に向けてプロジェクトを呼びかけ、メンバー皆さんの参加をいただきました。心から感謝しております。 佐藤 輝